宮崎大学医学部附属病院麻酔科専門医研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

宮崎大学を中心として宮崎県全土に及ぶ関連研修施設で、それぞれの病院の特性を生かした研修を行う。宮崎大学では、麻酔の初歩から心臓手術などの高度な麻酔に加え、ＩＣＵやペインクリニックなどの専門技術を習得する。県立病院群においては、主に麻酔に関して研修を行うが、心臓手術や開腹手術なども幅広く研修することができる。医師会病院群では、交通外傷や緊急手術の麻酔など救急関連の麻酔を多く経験し、救急医療の最前線で高度救命治療ならびに緊急麻酔を経験できる。都城医療センターでは、呼吸器手術や緊急帝王切開など、潤和会記念病院では付設されているペインセンターや救急ＩＣＵで痛みの治療や救急集中治療に関する高度な研修を受けることができる。県外施設として、神戸大学医学部附属病院と連携しており、宮崎県以外の研修先にて幅の広い麻酔研修を実施することができる。

今年度から、厚生労働省の指示により大都市圏での麻酔専門医研修に対し、シーリングが設定されている。そこで、上限の対象外である当大学が受け皿となり、麻酔科専門医を目指す若手を育成し、麻酔科医不足の現状に一石を投じる考えである。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

研修1～2年目は宮崎大学で麻酔の基礎から心臓手術まで幅広く麻酔を経験し麻酔認定医および標榜医を取得する。3年次に基幹研修施設にて、各施設に特徴的な麻酔技術を習得する。4年次は、大学病院にてＩＣＵやペインクリニックなどの関連分野を研修し、あわせて麻酔専門医取得を目指す。

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は専門研修基幹施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．
- 地域医療の維持のため，最低でも一年以上は地域医療支援病院である宮崎県立延岡病院または宮崎県立延岡病院で研修を行う．
- 九州地区の関連施設での研修を希望する場合は、研修登録の時点であらかじめプログラム責任者と協議する．なお、宮崎大学で半年間の研修は必須である。

その他、以下の特徴を有する．

勉強会/抄読会と症例検討会（年12回以上）

週に1度程度の割合で抄読会や勉強会を実施する．その論文は，現在の周術期管理に影響を受けると思われる国際的なガイドラインやレビューを対象としている．また、超音波ガイド下神経ブロック（年４回)、その時のトピックスを取り上げた外部講師の招聘を含むセミナー（年数回）を開催している．

また必要に応じて火曜日には、循環器内科および心臓外科とともに経カテーテル的大動脈弁留置術の症例検討会を開催している．

平日勤務日に、毎朝開催される術前症例カンファレンスのほかに各種研究発表会に参加し、麻酔科領域の専門知識の習得をはかる。

日本麻酔科学会支部の行う症例検討会、年に３−４回開催する麻酔関連研修会、麻酔科医会講演会への参加を必須とする．

年に2回、多種職（手術部看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長、担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする．

本プログラムの研修医師には、附属図書館への電子アクセス及びデータベースの検索権限を発行し、自己学習の環境を整えており、医療安全や医療倫理，院内感染に関する院内講習会が定期的に開催されており，受講を義務としている．

年度ごとに多種職（手術部看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長、担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする．

＜研修実施計画例＞

	宮崎県下中心タイプ	県外中心タイプ
初年度 前期	本院　麻酔	県外連携施設　Aor B
初年度 後期	本院　麻酔	県外連携施設　Aor B
２年度 前期	県内連携施設　Aor B	県外連携施設　Aor B
２年度 後期	県内連携施設　Aor B	県外連携施設　Aor B
３年度 前期	本院　集中治療 県内	県外連携施設　Aor B
３年度 後期	本院　ペイン 県内	県外連携施設　Aor B
４年度 前期	県内連携施設　Aor B 県外連携施設　Aor B	本院　麻酔
４年度 後期	県内連携施設　Aor B 県外連携施設　Aor B	本院　麻酔

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				当直

４．研修施設の指導体制

専門研修基幹施設

宮崎大学医学部附属病院

研修プログラム責任者：恒吉 勇男

専門研修指導医：恒吉 勇男　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

指宿 昌一郎（麻酔、手術部）

谷口 正彦（集中治療）

河野 太郎（麻酔）

山賀 昌治（ペインクリニック）

山下 幸貴（集中治療）

矢野 武志（集中治療）

新福 玄二（麻酔）

丸田 豊明（麻酔）

與那覇 哲（集中治療）

越田 智広（集中治療）

石山健次郎（麻酔）

専門医：川崎祐子（麻酔）

長濱真澄（集中治療）

田村 真由子（麻酔）

日高康太郎（麻酔）

古澤 高廣（集中治療）

深尾麻由（麻酔）

児玉　芳史（麻酔）

村社瑞穂（集中治療）

麻酔科認定病院番号：174

特徴:宮崎大学では､麻酔の初歩から食道がん手術や心臓手術などの高度な麻酔に加え、ＩＣＵやペインクリニックなどの専門技術を習得する｡最先端手術のTAVI手術やロボット手術（ダビンチ手術）の麻酔も経験できる。

専門研修連携施設Ａ

A-1 県立宮崎病院

宮崎県立宮崎病院

研修プログラム統括責任者：莫根　正
指導医：莫根　正（麻酔）
義川 祐子（麻酔、緩和ケア）
森　信一郎　（麻酔）
田村 隆二（麻酔）
吉村 安広　（麻酔）
外山 祥子　（麻酔）
太田尾　剛（麻酔）
麻酔科認定病院番号：321
特徴：宮崎市の基幹病院として多くの症例を施行している。症例も豊富にあり、偏りなく麻酔研修ができる。

A-2 宮崎市郡医師会病院

研修プログラム管理者：國武 歩
指導医：國武 歩（麻酔）
宮里　岳志（麻酔）
専門医：大久保 重明　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：0933
特徴：医師会病院として、市内の緊急手術や手帝王切開術など迅速な対応が求められる手術麻酔を経験できる。心臓手術も多い。

A-3 潤和会記念病院

研修プログラム管理者：中村 禎志
指導医：中村 禎志（麻酔）
辛島 謙（麻酔）
鵜島　雅子（麻酔）
専門医：
中矢　雅代（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1113
特徴：麻酔、集中治療、ペインクリニックそれぞれに専門医を有し、幅広い研修が可能である。症例数も多い。

A-4 宮崎江南病院

研修プログラム管理者：近藤　修
指導医：近藤　修（麻酔）
山下　昌子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1799
特徴：一般外科、整形外科、形成外科など落ち着いた麻酔症例を経験できる。熱傷や形成外科の緊急手術など比較的まれな麻酔を経験できる。

A-5 産業医科大学病院

研修実施責任者：堀下　貴文
専門研修指導医：堀下　貴文（麻酔）
寺田　忠徳（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
濵田　高太郎（麻酔）
岡田　久乃（麻酔）
竹下　利奈（麻酔）
山嵜　遼（麻酔）
森脇　邦明（麻酔）
蒲地　正幸（麻酔，集中治療）
古賀　和徳（麻酔，ペインクリニック）
原　幸治（麻酔，ペインクリニック）
認定病院番号：184
特徴：産業医科大学病院は，北九州唯一の特定機能病院として高度医療を提供し続けており，地域がん診療連携拠点病院としても地域において重要な役割を担っている．また，手術症例は多岐にわたっており，ほぼ全ての外科系手術の麻酔管理の研修が可能であり，特殊疾患患者の手術も多いため，質の高い教育を提供することができる．

特徴：頸椎手術が多く，様々な気道確保症例を経験できる．ペインクリニックの研修も可能である．

A-8 北九州総合病院

研修実施責任者：青山　和義
専門研修指導医：青山　和義（麻酔）
竹田　貴雄（麻酔，ペインクリニック）
西村　昌泰（麻酔）
野上　裕子（麻酔）

佐藤　珠美（麻酔）
専門医：添田　祐治（麻酔）
認定病院番号：447
特徴:当院は救命救急センターを有し,高度外傷をはじめ多彩な緊急手術を経験できる．神経ブロック併用の整形外科手術も多い．小児，胸部外科，脳神経外科，帝王切開などの経験必要症例もバランスよく研修可能である．

A-9 地域医療機能推進機構九州病院
研修実施責任者：村島　浩二
専門研修指導医：村島　浩二（麻酔）
芳野　博臣（麻酔）
松本　恵（麻酔）
今井　敬子（麻酔）
水山　有紀（麻酔，集中治療）
専門医：土井　拓（麻酔）
認定病院番号：257
特徴：北九州市西部の地域中核病院として，外科系全ての診療科の麻酔を数多く経験できる．特に，新生児外科，先天性心疾患，産科の症例が豊富である．

A-10 久留米大学病院
研修実施責任者：平木　照之
専門研修指導医　：平木　照之　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
山田　信一　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
原　　将人　（麻酔、心臓血管麻酔）
中川　景子　（麻酔）
津田　勝哉　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
平田　麻衣子（麻酔）
大下　健輔　（麻酔、心臓血管麻酔）
亀山　直光　（麻酔）
西尾　由美子（麻酔）
太田　聡　　（麻酔）
横溝　美智子（麻酔）
上瀧　正三郎（麻酔）
兵頭　彩子　（麻酔）
服部　美咲　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：0041

特徴:手術麻酔だけでなく、ペインクリニック・緩和ケアでの研修を行うことができる。また希望により外科系集中治療部、救急医療（高度救命救急センター）での研修も行うことができる。手術麻酔については心臓大血管手術、開頭術、分離肺換気を必要とする開胸術など多数の手術を行っており、重篤な合併症を抱えた患者の麻酔管理も多い。ペインクリニックでは慢性疼痛、急性痛、癌性疼痛の投薬治療や神経ブロック療法を経験することができる。また脊椎疾患や多汗症の手術治療や癌性疼痛、難治性疼痛に対する永久ブロックや脊髄刺激療法などを経験することができる。緩和医療では終末期がん患者の疼痛管理や苦痛に対する治療を経験できる。看取り期に必要な医療の提供の方法を学ぶことができる。

A-11 久留米大学医療センター

研修実施責任者：古賀　由香利
専門研修指導医：古賀　由香利（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1451
特徴：クリニカルパスを含めた、手術麻酔のマネジメントを経験できる。また整形外科疾患におけるエコーガイド下末梢神経ブロックを集中的に経験することができる。

A-12 大牟田市立病院

研修実施責任者：山田　阿貴子
専門研修指導医：伊藤　貴彦（麻酔、救急医療）
山田　阿貴子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：0386
特徴：地域医療支援病院、がん診療拠点病院、災害拠点病院。小児麻酔や産科麻酔、脳神経外科や胸部外科の症例が豊富で緊急手術も多い。災害拠点病院でもあり、救急医療にも力を入れている。

A-13 筑後市立病院

研修実施責任者：濵田　伸哉
専門研修指導医：濵田　伸哉（麻酔）
麻酔科認定病院番号：0900
特徴：災害拠点病院。鏡視下手術の麻酔や手術室外での麻酔を経験できる。

A-14 大分大学医学部附属病院

研修プログラム実施責任者：北野敬明
専門研修指導医：北野敬明（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
松本重清（麻酔，集中治療）

新宮千尋（麻酔）
奥田健太郎（麻酔，ペインクリニック・緩和）
後藤孝治（麻酔，集中治療）
日髙正剛（麻酔，集中治療）
内野哲哉（麻酔）
安田則久（麻酔，集中治療）
山本俊介（麻酔，集中治療，ペインクリニック・緩和）
安部隆国（麻酔，集中治療）
小山淑正（麻酔，心臓麻酔）
大地嘉史（麻酔，集中治療）
牧野剛典（麻酔，集中治療）
佐々木美圭（麻酔，ペインクリニック・緩和）
専門医：小坂麻里子（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
栗林由英（麻酔、集中治療）
中村尚子（麻酔）
松田千尋（麻酔）
麻酔科認定病院番号：237
特徴：麻酔管理だけでなく、周術期管理医学として、ペインクニックや集中治療の教育にも力を入れている．希望者は緩和ケアチームへのローテーションも可能.

A-15 琉球大学病院

研修プログラム実施責任者：垣花学
専門研修指導医：垣花　学（麻酔）
中村清哉（麻酔，ペインクリニック・緩和）
渕上竜也（麻酔，集中治療）
大城匡勝（麻酔）
照屋孝二（麻酔，集中治療）
野口信弘（麻酔）
神里興太（麻酔，集中治療）
安部真教（麻酔，ペインクリニック・緩和）
大久保潤一（麻酔，ペインクリニック・緩和）
宜野座到（麻酔）
久保田陽秋(麻酔)
仲嶺洋介（麻酔）
赤嶺　斉（麻酔）
渡邉洋平（麻酔）

林　美鈴（麻酔）
専門医：松尾敬介（麻酔）
小池奈央（麻酔）
古賀勇太（麻酔）
新里勇人（麻酔）
島袋大地（麻酔）
認定病院番号：94
特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。
集中治療，ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

A-16 那覇市立病院
研修実施責任者：宮田裕史
専門研修指導医：宮田裕史（麻酔）
富山洋（麻酔）
福元千尋（麻酔）
金城健大（麻酔）
認定病院番号：504
特徴： 脳神経外科の症例（腫瘍・血管手術・血管内手術）が豊富に経験できる。また、緊急手術の症例も多く緊急手術時の麻酔を多数経験でき、ICUも10床あり麻酔科管理のもと運営している。

A-17 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（以下、医療センター）
研修実施責任者：川端徹也
専門研修指導医：川端徹也（麻酔）
比嘉久栄（麻酔）
兼城真帆（麻酔）
伊敷聖子（麻酔）
専門医：野中信一郎（麻酔）
桃原志穂（麻酔）
高橋有理恵（麻酔）
認定病院番号：No.49
特徴： 小児専門病院であり、小児領域の先進高度医療を行なっている。
当麻酔科もその一翼を担っている。心臓血管外科、脳外科、産科症例麻が待機的・緊急にかかわらず多数経験可能でもある。

A-18 神戸大学医学部附属病院

施設責任者：溝渕知司
専門研修指導医：溝渕知司（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
出田眞一郎（麻酔，集中治療）
江木盛時（麻酔，集中治療）
佐藤仁昭（麻酔，ペインクリニック）
小幡典彦（麻酔）
大井まゆ（麻酔、小児）
岡田雅子（麻酔、集中治療）
法華真衣（麻酔、心臓血管）
巻野将平（麻酔、集中治療）
田口真也（麻酔）
野村有紀（麻酔）
中川明美（麻酔）
武部佐和子（麻酔、心臓血管）
古島夏奈（麻酔、集中治療）
専門医：吉田卓也（麻酔）
上野喬平（麻酔）
西村太一（麻酔）
藤本大地（麻酔）
岡田卓也（麻酔）
若林潤二（麻酔）
桑原緑（麻酔）
畑澤佐知（麻酔）
白川尚隆（麻酔）
坪井ちづ（麻酔）
杉野太亮（麻酔）
麻酔科認定病院番号：29
特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。また、集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である。

A-19 北九州市立医療センター

研修プログラム統括責任者：加藤　治子
専門研修指導医：加藤　治子（麻酔、ペインクリニック）
齋川　仁子（麻酔）
原賀　勇壮（麻酔、緩和、ペインクリニック）

平森　朋子（麻酔、ペインクリニック）
松山　宗子（麻酔）
武藤　官大（麻酔、ペインクリニック、災害）
武藤　佑理（麻酔、ペインクリニック）
神代　正臣（麻酔、緩和、ペインクリニック）
専門医：豊永　庸佑（麻酔）
奥村　美絵（麻酔、緩和、ペインクリニック）
小川　のり子（麻酔、ペインクリニック）
麻酔科認定病院番号：316
特徴：北九州市立医療センターでは、対象患者は極小未熟児から超高齢者まで多岐にわたります。高度型がん診療拠点病院であり、ロボット支援手術を筆頭に高度がん医療の麻酔管理を行います。総合周産期母子医療センターも有しており、超緊急帝王切開を含め産科急患や、出生直後の新生児外科症例を経験します。超音波ガイド下神経ブロックも積極的に全身麻酔と併用しています。手術麻酔の他にも麻酔科医が中心となって D-MAT を編成し救急災害に備えています。ペインクリニック（ペインクリニック学会指定研修施設）や緩和ケア（がん治療支援）も学ぶことができます。

A-20 九州大学病院

研修プログラム統括責任者:山浦　健（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
専門研修指導医：山浦　健（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
東　みどり子（麻酔）
辛島　裕士（麻酔）
神田橋 忠　（麻酔）
徳田 賢太郎（麻酔、集中治療、救急）
牧　盾（麻酔、集中治療、救急）
藤吉　哲宏（麻酔、集中治療、救急）
前田　愛子（麻酔、ペインクリニック）
白水　和宏（麻酔、集中治療、救急）
住江　誠　（麻酔）
山本美佐紀（麻酔）
松下　克之（麻酔）
梅原　薫　（麻酔）
大澤　さやか（麻酔、集中治療、救急）
土井　浩義（麻酔）
中川　拓（麻酔）
福徳　花菜（麻酔、緩和ケア）

信國　桂子（麻酔）
水田　幸恵　（麻酔）
佐々木　翔一（麻酔）
中山　昌子（麻酔、ペインクリニック）
専門医：
安藤　太一（麻酔、集中治療）
川副　明生（麻酔）
認定病院番号: ８
特徴:九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術)、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での幅広い研修を行うことができる。

A-21 国立病院機構　九州医療センター（以下，九州医療センター）
研修実施責任者：甲斐　哲也（麻酔，ペインクリニック）
専門研修指導医：中垣　俊明（麻酔）
吉野　裕子（麻酔）
虫本　新恵（麻酔）
福岡　玲子（麻酔）
専門医：小野　悦子（麻酔）
川久保　紹子（麻酔）
新原　妙子（麻酔）
織田　寛子（麻酔）
久保田　諒（麻酔）
認定病院番号：697
特徴:外科系の全診療科を有し、麻酔科専門医に求められる全ての領域の麻酔を経験することができる。全身麻酔は全静脈麻酔を主体とし、速やかで質の高い覚醒と術後嘔の少ない良質な麻酔を目指しており、全静脈麻酔を多数経験することができる。術後鎮痛に配慮してエコーガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行しており、対象症例も多いため、神経ブロックも多く経験することができる。術後ivPCAを施行する患者も多くそのコントロールへの関与も可能である。

A-22 地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市立こども病院
研修実施責任者：水野　圭一郎
専門研修指導医：水野　圭一郎（麻酔）

泉　薫（麻酔）
住吉　理絵子（麻酔）
藤田　愛（麻酔）
賀来　真里子（麻酔）
木村　寛子（麻酔）
新井　千晶（麻酔）
小栁　幸（麻酔）

認定病院番号　205　（1980 年認定）
特徴:サブスペシャリティとしての小児麻酔を月 30〜50 例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能。また、地域周産期母子医療センターであり、超緊急を含む帝王切開や内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術も経験できる。外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛治療にも力を入れており、麻酔科主導で硬膜外鎮痛や PCA を管理している。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

A-23 雪の聖母会　聖マリア病院（以下、聖マリア病院）

研修実施責任者：藤村直幸（麻酔・救急・集中治療）
専門研修指導医：　吉野淳（麻酔）
自見宣郎（麻酔）
甘蔗真純（麻酔）
漢那朝雄（麻酔・集中治療・救急）
坂井寿里亜（麻酔）
田邉光和子（麻酔）
田中麻衣（麻酔）
認定番号483
特徴：当院の手術室は15室あり手術室の規模としては大きく、年間手術件数は約9000件、麻酔科管理症例は5000例を超えています。41の診療科を標榜しており、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外1科医、移植外科、小児外科、形成外科など、様々な科の手術に対する麻酔を経験することができます。救命救急センターへは年間10000台を超える救急患者の受け入れ実績があり、また総合周産期母子医療センターを併設しているため、緊急手術が必要な
重症患者やハイリスク妊婦に対する麻酔管理も行っています。整形外科、呼吸器外科小児外科手術に対しては、超音波ガイド下神経ブロックを併用し術後鎮痛をはかっており、幅広い研修が可能です。

A-24 社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院（済生会福岡病院）

研修実施責任者：吉村　速（麻酔）
専門研修指導医：吉村　速（麻酔）
倉富 忍（麻酔）
阿部　潔和（麻酔）
牛尾 春香（麻酔）
八田 万里子（麻酔）
田口 祥子（麻酔）
渡邊 麻美（麻酔）
認定病院番号：１０４３
特徴：済生会福岡総合病院は、病床数３８０床、手術室９室（うち1つはハイブリッド手術室)、年間手術症例数４０００件の福岡市の中心天神地区に位置する中規模急性期総合病院である。第 3 次救急救命センターを有しているため、緊急症例が多く、全手術件数の 20%以上が緊急手術で、胸腹部大動脈破裂・頭部外傷・消化管穿孔・多発外傷等の緊急手術に 365 日 24 時間対応している。また、ハイブリッド手術室では、TAVI・TEVARをはじとする経カテーテル手術も全身麻酔科下に積極的に施行しており、難易度の高い術式や循環器系の重症合併症を有する患者の手術症例が多く施行されている。さらに、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、福岡県災害拠点病院に指定されており、地域の医療の一翼を担っている。

A-25 福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：秋吉　浩三郎
専門研修指導医：秋吉　浩三郎　（麻酔、心臓血管麻酔、緩和ケア）
重松　研二　　（麻酔、集中治療）
楠本　剛　　（麻酔, 心臓血管麻酔）
柴田　志保　　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
岩下　耕平　　（麻酔、集中治療）
佐藤　聖子　　（麻酔、産科麻酔、小児麻酔）
三股　亮介　　（麻酔、心臓血管麻酔）
中野　涼子　　（麻酔、心臓血管麻酔）
平井　規雅　　（麻酔、ペインクリニック）
富永　将三　　（麻酔、小児麻酔）
南原　菜穂子　（麻酔、集中治療）
麻酔科認定病院番号：92
麻酔科管理症例数 6322症例

特徴：例年 8000 例以上の手術症例数，約 7000 例の麻酔科管理症例があります。2020 年度は新型コロナウイルスの影響で麻酔科管理症例は6322 例と 1000 例程度減少しましたが、症例数は豊富で、麻酔科専門研修に必要な症例はすべて経験することができます。施設としては、移植手術（脳死および生体肺移植術、腎移植手術）、心大血管手術や外傷手術などの緊急手術を多く経験できることが特徴です。麻酔管理の特徴としては、超音波ガイド下の末梢神経ブロックを数多く行っており、術後の疼痛管理に積極的に取り組んでいます。また、周術期管理センターを開設し、周術期管理チームとして看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し、全身状態の評価を入院前から行っています。麻酔科医が主体となって外科系集中治療室を運営しており、術中から術後まで継続した全身管理を学ぶことが可能です。ペインクリニックでは急性痛･慢性痛に対する薬物療法や神経ブロックを経験できます。緩和ケアではチームの一員としてがん患者とその家族の身体的・精神的苦痛を和らげる支援をしています。その他、神経ブロックを始めとする各種講習会や研修会を定期的に開催しており、様々な資格・認定を取得することが可能です。

A-26 日本赤十字社　福岡赤十字病院

研修実施責任者：生野愼二郎
専門研修指導医：生野愼二郎（麻酔）
江口　明　（麻酔）
迎　雅彦　（麻酔）
中森絵里砂（麻酔）
戸田志緒里（麻酔）
認定病院番号　243
麻酔科管理症例数 3010症例
特徴：帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術の症例数は週に１例以上あり、帝王切開術は特に多い。全身麻酔を基本に、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、神経ブロックを併用した麻酔管理を行っている。近年は麻酔困難症例に対して超音波ガイド下の神経ブロックを積極的に行っている。腎センターが併設されており、透析患者の麻酔管理も多い。

A-27 福岡大学筑紫病院

研修実施責任者：若崎るみ枝
専門研修指導医：若崎るみ枝（麻酔）
中原春奈（麻酔）
野口紗織（麻酔）
熊野仁美（麻酔）

麻酔科認定病院番号　　398
麻酔科管理症例数　1805症例
特徴：
1)　炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の症例数が全国的にも多く、大腸全摘や肛門周囲膿瘍切開排膿術など、疾患に関連した手術が多い。
2)　肩関節手術を含む整形外科症例が多く、神経ブロックを行う症例が豊富である。
3)　一般外科は食道、膵臓、肝臓、結腸、肺、胆嚢、鼠径ヘルニアなどの腹腔鏡手術、開腹手術が多く行われており、バランスよくどちらの麻酔も学ぶことができる。
4)　希望者は緩和ケアチームへの参加可能。

A-28 唐津赤十字病院

研修実施責任者：嘉手川　繁登
専門研修指導医：嘉手川　繁登（麻酔）
郷原　的（麻酔）
認定病院番号　547
麻酔科管理症例数：1557症例
特徴：佐賀県北部地域の医療の中核を担い、年間約1500例の麻酔管理を行なっている。外科、整形外科、脳外科、産婦人科をはじめ様々な外科系手術を行なっており、また外傷、帝王切開などの緊急手術症例も経験することができる。

専門研修連携施設Ｂ

B-1 宮崎県立日南病院

研修実施責任者：江川 久子
指導医：江川 久子
専門医：興梠　聡志
麻酔科認定病院番号：653
特徴：県南地区の手術の中心施設である。緊急帝王切開術が多い。

B-2 県立延岡病院

研修プログラム管理者：白阪 哲朗
指導医：白阪 哲朗
麻酔科認定病院番号：856
特徴:県北の手術を一手に引き受けている。開心術から小児手術まで麻酔の範囲が広く、さまざまな麻酔症例を経験できる。

B-3 都城市郡医師会病院

研修プログラム管理者：涌水 涼子

指導医：涌水 涼子（麻酔）

専門医：長嶺　佳弘（麻酔）

麻酔科認定病院番号：931

特徴：県西の緊急手術を多く引き受けている。特に緊急の脳神経外科手術が多い。

B-4 国立病院機構都城医療センター

研修プログラム管理者：岩崎 竜馬

指導医：岩﨑 竜馬

麻酔科認定病院番号：819

特徴：都城地区の中核病院。一般外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科などの外科手術の麻酔管理を行う。緊急帝王切開術が多い。

B-5 福岡東医療センター

研修実施責任者：白武孝久

専門研修指導医：白武孝久（麻酔）

麻酔科認定病院番号：654

麻酔科管理症例数：1661例

特徴：呼吸器外科手術が多い。

4. 募集定員　10名

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2021年10月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，宮崎大学麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

宮崎大学医学部附属病院　麻酔・集中治療科　教授 恒吉勇男

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武木原5200

TEL 0985-85-2970

e-mail:　isao45@med.miyazaki-u.ac.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

７．専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

８．専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

＜専門研修１年目＞

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

＜専門研修２年目＞

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

＜専門研修 3 年目＞

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

＜専門研修 4 年目＞

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

９．専門研修の評価（自己評価と他者評価）

①　形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

②　総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

１０．　専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

１１．　専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．本プログラムの専門研修指導医は、事前に臨床研修指導医講習会を受ける。また、日本麻酔科学会の主催するFD講習の学会での受講もしくは日本麻酔科学会のEラーニングでの受講に努めることとする．

１２．　専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

①　専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める．

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する．

研修プログラムは、研修委員会での各研修施設からの意見、年次末に行われる専攻医による評価を基準に、適正性を判断し、改善の必要があると判断された場合には、研修委員会にて協議の上でプログラムの修正を行う．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

１３． 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての県立延岡病院，県立日南病院，都城医療センター病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

県立延岡病院，県立日南病院，都城医療センター病院では十分な指導医の数と指導体制が整っているが，指導体制が十分でないと感じられた場合は，専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接，文書，電子媒体などの手段によって報告することが可能であり，それに応じて研修プログラム統括責任者および管理委員会は，研修施設およびコースの変更，研修連携病院からの専門研修指導医の補充，専門研修指導医研修等を検討する．